

## ロシア

### 2004年のロシア経済

GDPは、1999年以来6年連続のプラス成長を記録し、2004年には7.1%と前年(7.3%)同様の成長を達成した。固定資本投資は前年同様10%以上の増加率を記録したが、鉱工業生産における主な部門の成長率は次の通りであった。電力部門0.3%、燃料部門7.1%、鉄金属部門5.0%、非鉄金属部門3.6%、化学・石油化学部門7.4%、機械・金属加工部門11.7%、林業・木材加工部門3.0%、建設資材部門5.3%、食品工業部門4.0%、軽工業部門7.5%。

消費者物価指数(インフレ率)に関しては、上昇率10%以内というロシア連邦政府による当初の目標を達し得なかった(11.7%)が、5年連続の下降傾向を続けている。他方、名目平均賃金上昇率は22.9%を記録してインフレ率を上回り、実質平均賃金が10.8%増加し、可処分所得も約8%増加した。小売売上高については、12.1%と前年の8.4%、前々年の9.2%を大きく上回り、消費者購買力が順調に伸び続けていることを示している。

### 対外経済活動

経済貿易発展省の推定によれば、対外貿易の増大(前年比31.1%)がGDP成長のうち3.9%相当分、寄与したとしている。さらにそのうち2.5%相当分は、世界市場における原油価格の高騰によるものであったとしている。因みに、2003年のGDPにおいて、対外貿易と原油価格が成長を牽引した割合は、各々2.8%、1.5%であった。

ロシア連邦国家統計委員会の発表(2005年2月)によれば、総輸出高は前年比34.6%増(2003年は同24.9%増)となり、そのうちCIS諸国向けが前年比40.0%増、それ以外の外国向けが同33.5%増であった。輸出品目の内訳は、燃料エネルギーが57.1%(前年比0.4ポイント増)、金属(加工)が16.8%(2.9ポイント増)、機械設備が7.8%(1.2ポイント減)

であった。

燃料エネルギー製品の輸出量は10.3%増であったが、輸出価格は36.6%上昇した。輸出品目に関しては、原油が15.0%増、天然ガスが5.5%増、石炭が18.7%増、石油製品が5.5%増を記録した。

他方、ロシアの対外貿易の活発化については、輸入面についてもうかがえよう。総輸入高は前年比24.7%増となり、そのうちCIS諸国以外からの輸入が全体の約8割を占め、前年比23.2%増となった。輸入品目の内訳は、機械・設備・輸送機器関連が41.2%、食料品・農業原料が18.3%、化学工業が15.8%であった。

CIS以外の諸国との貿易のうち55%はEU諸国が相手となっている。EUの中では、ドイツ約239億ドル(前年比28.8%増)、オランダ約166億ドル(同67.4%増)及びイタリア約153億ドル(同39.9%増)が際立っている。その他の主な貿易相手国として、米国が約98億ドル(同36.3%増)、中国が約149億ドル(同28.4%増)であった。

JETRO(日本貿易振興機構)の発表(2005年2月)によれば、対日貿易は約88億ドル(輸出は前年比78.6%増、輸入は同34.8%増)に達した。日本の対ロ輸出品目のうち、自動車等を含む輸送用機器が63.4%、一般機器が12.6%、電気機器が10.1%を占めた。ロシアからの輸入品目については、金属(加工)製品が35.9%、鉱物性燃料が25.7%、魚介類等の食料品が19.1%、木材等の原料品が16.3%であった。

2004年、ロシアに対する外国投資は、約405億ドル(前年比36.4%増)であったが、そのうち23.3%を直接投資が占めた。キプロス、オランダ、ルクセンブルク、ドイツ、英国、フランス及び米国で、外国投資全体の80.7%を占めたが、これらの国々からの投資の77.6%が直接投資であった。外国投資の対象については、25.9%が卸売・小売業を含む商取引、24.1%が製造業、20.4%が鉱物資源の採掘に向けられた。(ERINA調査研究部研究員 伊藤庄一)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
実質GDP(%)	10.0	5.1	4.7	7.3	7.1
鉱工業生産(%)	11.9	4.9	3.7	7.0	7.3
農業生産(%)	7.0	6.8	1.7	1.5	1.6
固定資本投資(%)	17.4	8.7	2.6	12.5	10.9
小売売上高(%)	8.7	10.8	9.2	8.4	12.1
消費者物価(%)	20.2	18.6	15.1	12.0	11.7
実質可処分所得(%)	9.3	5.8	9.9	13.7	8.2
失業率(%)	10.5	9.0	8.0	8.3	8.6
貿易収支(十億USD)	60.17	48.12	46.34	60.49	88.40
経常収支(十億USD)	46.84	33.57	29.52	35.85	19.00

(注) 前年同期比。但し、消費者物価上昇率は対前年12月比、失業率は各年末時点の値。

イタリックは(2005年2月・経済貿易発展省発表)時点での暫定値。

(出所) ロシア連邦国家統計委員会、ロシア連邦中央銀行、ロシア連邦財務省、ロシア連邦経済発展貿易省による公式統計値(各年版)より作成。